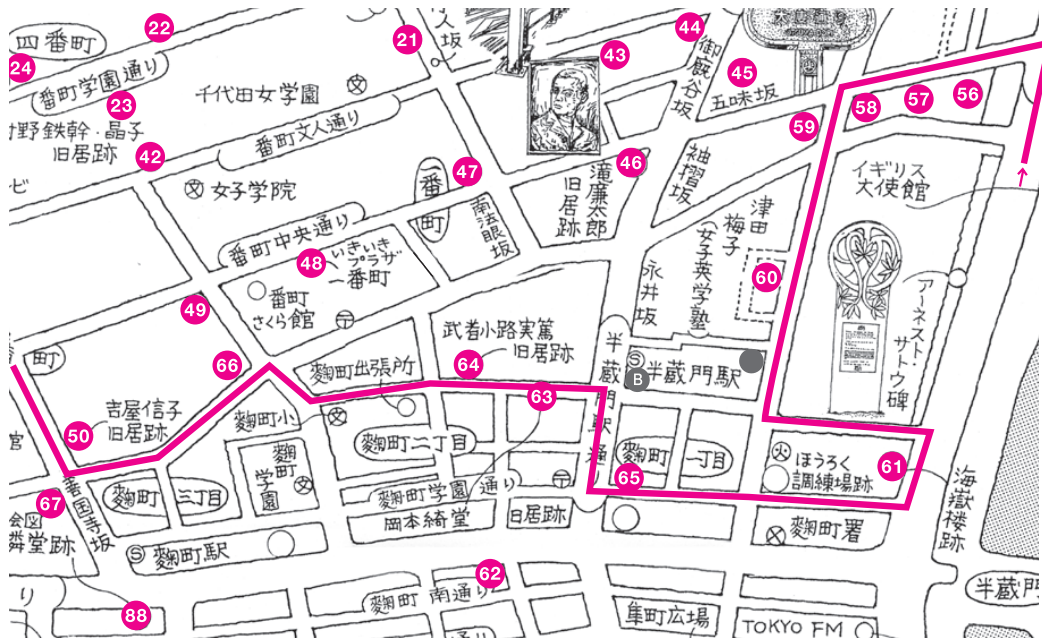


**C** 散歩道・Cコース  
 <半蔵門通りを中心として>

ウォーキング・データ	距離:1.8km 2250歩(歩幅80cm) 所要時間:35分(ゆっくり歩いて)
------------	---

※くわしい人物紹介は、WEBサイト「麹町界隈わがまち人物館」で!

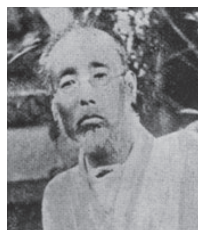


地図外 51 三宅雪嶺

場と呼ばれ、ここで武芸を訓練していたのです。このあたりにアナーキストの大杉栄が下宿していた場所もあり、首相となった軍人田中義一は、この近くの別宅で亡くなっています。社会主義思想家の堺利彦は一時期、麹町区民館あたり住んでいたといいます。

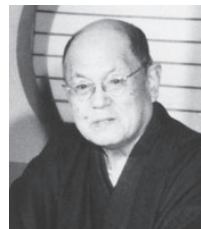
なんとといっても、このあたりで一番ゆかりの深い人物といえば、新歌舞伎の作者で『半七捕物帳』などを書いた岡本綺堂<sup>63</sup>でしょう。現在高齢者施設(ジロール麹町)となっている場所あたりに住み、その後麹町小学校の近くに移転しました。幕末から評判だったお鉄牡丹<sup>64</sup>も、今の萬屋酒店あたりです。また、このあたりに白樺派詩人であった千家元麿<sup>65</sup>が少年時代を過ごした家がありました。白樺派といえば、その代表的な作家武者小路実篤<sup>64</sup>は、全国農業共済会館あたりで誕生したので

散 歩コースのスタートは、イギリス大使館前からです。正門の近くにかけて公使を務めたアーネスト・サトウの碑や千代田区歌の碑などがあります。大使館前の土の歩道も懐かしいですね。内堀通りを靖国神社の方向へ向かって千鳥が淵公園の先角を左に曲がったマンションは、英語学者の齊藤秀三郎<sup>66</sup>邸跡です。秀三郎の息子の齊藤秀雄は、サイトウ・キネン・オーケストラにその名を残す洋楽界の名伯楽でした。その隣は、「東洋のルソー」中江兆民<sup>57</sup>が興した仏学舎のあった場所、さらにその隣には高浜虚子<sup>68</sup>が住んでいました。



中江兆民

イギリス大使館の裏の道には、山田耕筰<sup>59</sup>が住み、また若き日の文学者が集ったという洋食屋「快樂亭」もこのあたりにあったと思われます。



武者小路実篤

大使館の裏手は、新5000円札の顔となる津田梅子<sup>60</sup>が明治33年に創立した女子英学塾(現在の津田塾大学)の校舎がありました。また、大使館の南側には儒者安井息軒<sup>61</sup>の海嶽楼があった場所とされています。麹町警察署の後ろ一帯は、幕末はほうろく調練

麹町小学校は明治8年の開校。瀧廉太郎<sup>69</sup>などが学んだことで知られています。その隣の麹町学園は明治38年の創立の女子校ですが、この場所にはそれ以前、暁星学校、海軍予備校、実践女学校などの校舎でした。この反対側の坂を下ったあたりに、幕末と明治の外交官だった田辺太一<sup>66</sup>の屋敷がありました。太一の娘は、樋口一葉の先輩だった女流作家の田辺花圃です。この道を日本テレビ通りに向かうあたりに、反骨の時代小説家中山義秀と、結婚した女流作家の真杉静枝が一時住んでいた家があったようですが詳細は不明です。



岡本綺堂

本テレビ通りを出ると、女流作家として一世を風靡した吉屋信子<sup>60</sup>の瀟洒な日本家屋があり、またその向いは、田辺太一の娘花圃と結婚したジャーナリストで哲学者の三宅雪嶺<sup>61</sup>の住んだ家があったところです。その並びの日本製粉の建物は、戦後の写真界を牽引した写真家土門拳<sup>67</sup>が晩年住んだ場所でした。



吉屋信子